

第9期事業報告書

(2015年10月～2016年9月)

一般社団法人 J E A N

1. 海洋ごみ問題に関わる情報の収集及び発信

(1) 海洋ごみ問題について、マスメディア等からの取材または照会に応じた。

(2) 海の情報を網羅する情報ウェブサイト「海ごみプラットフォーム・JAPAN(Malip)」を運営した。

(3) JEANの活動及び海洋ごみ問題について広く知ってもらうため、JEAN ウェブサイトを適宜、更新した。

(4) 機関紙「美しい海をこどもたちへ」の編集・発行

サポーター、各地のクリーンアップ運営担当者（以下、「キャプテン」という）及び関係者を対象に、海洋ごみに関する情報を掲載した機関紙「美しい海をこどもたちへ」を、4回発行した。

39号（2015年11月発行、A4版4ページ）

40号（2016年2月発行、A4版6ページ）

41号（2016年6月発行、A4版4ページ）

42号（2016年8月発行、A4版4ページ）

(5) 団体の公式フェイスブックページを作成した。

(6) 講演等の案内を、適宜メール等で関係者に行った。

(7) その他

国内各地の行政、民間企業、NPO等（個人を含む）との情報交換に対応した。

2. 海洋ごみ問題に関わる調査研究

(1) 自主調査

①日本における「国際海岸クリーンアップ（ICC調査）」の主催

世界約100カ国でいっせいに行われる「国際海岸クリーンアップ」へ参加するため、協力団体を中心に日本国内での参加呼びかけを行った。また、協力団体が実施した結果をとりまとめ、12月に主宰団体であるオーシャン・コンサーバンシー（アメリカ）へ報告した。

②東日本大震災に起因する漂流物の、北米西海岸等への漂着について、現地関係者から情報を収集、記録している。

持主探しにつながる情報（店舗名から当時の所在地等）を調べ、手がかりが見つかった場合は役場や漁協等へ連絡した。これらの状況については、随時機関紙上に掲載して報告した。

3. 海洋ごみ問題に関する啓発及び国際協力

(1) クリーンアップキャンペーンの展開

漂着ごみの実態把握と海洋ごみ問題の啓発活動の一環として、ICC 調査を取り入れたキャンペーンを春と秋に展開し、参加の呼びかけや結果のとりまとめを行った。

① 2015 年秋のキャンペーン（対象期間：9～10 月）

目 的：漂着ごみの ICC 調査

会場数 175 箇所 参加者数 10,182 人

② 2016 年春のキャンペーン（対象期間：4～6 月）

目 的：漂着ごみの回収

会場数等 164 会場、17,910 人

2016 年秋のキャンペーン（対象期間：9～10 月）

目 的：漂着ごみの ICC 調査

会場数等 149 会場、8,476 人

④ データベースの構築

調査データの蓄積のため、データベースを構築し、蓄積作業を継続している。

⑤ 2015 年の活動状況をまとめた「クリーンアップキャンペーン 2015 レポート」（A4 版、73 ページ）を 100 部、概要版（A4 版カラー 8 ページ）を 1,000 部作成し、キャプテンを中心に配布した。

(2) 啓発用展示物の貸し出し

海洋ごみ問題の現状を認識してもらうため、4 種類の展示物を貸し出し、広報活動を行った。また、近年関心の高まっている「マイクロプラスチック」による海洋汚染問題の啓発のため、新たな写真パネルを作成した。

① 写真パネル（「みんなの問題海のごみ」A1 アルミフレームタイプ、A1 ロール型、A3 ラミネート型「新たな海洋汚染マイクロプラスチック」）

貸出団体： 38 団体 貸出日数 279 日

新版漂着物のトランク・ミュージアム

貸出団体： 6 団体 貸出日数 39 日

(3) 国際的な知見共有等

① 韓国の NGO「OSEAN」との連携協力

今後の協力内容等を検討する会議を、韓国で開催した。

日韓共同英文ニューズレターの第 6 - 2 号を 2015 年 12 月に、第 7 号を 2016 年 6 月に発行した。

② 「国際海岸クリーンアップ（ICC）」主宰団体のオーシャン・コンサーバンシー（アメリカ）へ、2015 年の国内データを 12 月に提供した。

(4) 講演・研修指導等の協力

以下の会場で、海洋ごみ問題について講演及び研修指導等を行った。

<講演活動>

- ・エコネット沼津講演（10月31日）
- ・NRDアジア講演（11月15日）
- ・長崎渚シンポジウムパネルディスカッション（11月17日）
- ・ヨコハマ海洋市民大学講演（11月19日）
- ・ハワイ・ヒロシンポジウム活動報告（12月4日・5日）
- ・国際協力事業団隊員向け講演（3月8日、6月21日、9月21日）
- ・第2回川ごみサミット（1月22日）
- ・環境省新春海ごみシンポジウム発表（1月24日）
- ・香川県海ごみ発生抑制に係る人材育成業務 講演とワークショップ（3月4～5日）
- ・日本アムウェイ担当者向けレクチャー（3月9日）
- ・知床岬海ごみフォーラム（5月28日）
- ・国土交通大学校海岸研修（6月17日）
- ・静岡県消費者協会講演（7月6日）
- ・港区エコプラザ講演（OWS）（7月20日）
- ・こどもサポートチームすわ講演（7月28日）
- ・対馬市島おこし実践塾講演（8月19～20日）
- ・立川市消費生活講座講演（9月3日）
- ・日本水環境学会シンポジウム講演（9月13日）
- ・品川シルバー大学講演（9月15日）
- ・公文国際学園授業（9月27日）

<ごみ調査指導等>

- ・アムウェイクリーンアップ和歌山会場（4月10日）
- ・アムウェイクリーンアップ長野会場（6月5日）
- ・アムウェイクリーンアップ山形会場（7月3日）
- ・パタゴニアサーフ千葉（9月25日）

4. 政策提案

(1) 東日本大震災に起因する漂流・漂着物問題にかかわる活動

随時、海洋ごみ問題の情報収集を行い、状況に応じ、連絡調整等を行った。

(2) その他

海洋ごみ問題への理解等を図るため、適宜各党の関係国会議員との面談を行った。

5. 附帯又は関連する事業

(1) 専門会、委員等の協力

以下の会議に出席し、情報収集及び提案等を行った。

- ・食品容器環境美化協会主催 環境美化教育優良校等表彰審査委員会（東京都）
- ・海岸漂着物対策専門家会議（環境省）
- ・漂流・海底ごみ実態把握調査検討会（環境省）
- ・海岸環境調査研究会（財）リバーフロント整備センター（東京都）
- ・沖縄県海岸漂着物対策推進協議会 委員（沖縄県）
- ・同上 ワーキンググループ（沖縄県）
- ・海ごみ関係者懇談会（環境省）
- ・山形県海岸漂着物対策推進協議会 副会長（山形県）

6. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 出版社等からの要望により、海洋ごみ問題に関する画像を、有料で貸し出した。

(2) 資料（「海辺のカルテ」、映像資料「ゴミ箱になった海」、映像資料「人工の海」）を、継続して販売した。

(3) 受託事業等

① 第13回海ごみサミット2015 長崎・五島会議 運営委託業務（長崎県）

10月23-25日

② 海ごみ交流事業業務委託（長崎県）

7月15-17日

(4) その他

オリジナル資料等の効率的な販売を図っていくため、(株)ゴーフールド（本社：香川県高松市）の協力を得て、ネットショッピングサイト JEAN STORE を運営し、通信販売を行った。